

9/26現在 サンプル

第2期
丹波市生涯学習基本計画

(令和7年度～令和16年度)

令和7年4月

丹波市

はじめに

写真

キャッチフレーズ？

市長あいさつ

- ・大人も子どもも共に楽しくまなび合う丹波市
- ・誰もがやりたいことにチャレンジできるまち
- ・対話を通じて学びの土壌を耕す「人づくり」とそれを支える地盤としての教育行政の充実

など

令和7年4月

丹波市長 ○○ ○○

目次

第1章 丹波市生涯学習基本計画の策定にあたって

1. 生涯学習とは
2. 計画策定の目的
3. 計画の位置づけ
4. 計画の期間

第2章 第1期丹波市生涯学習基本計画の検証

- 1.【基本目標1】まなび人を増やそう
- 2.【基本目標2】まなび力を育てよう
- 3.【基本目標3】まなび里をつくろう

第3章 本市の生涯学習に関する現状と課題

1. 生涯学習に関する市民の意識
2. 生涯学習をとりまく社会情勢の変化と丹波市の現状
3. 丹波市における生涯学習施策の課題

第4章 基本構想

1. 基本理念
2. めざす方向性
3. (体系図)

第5章 計画の推進

1. めざす方向性1
2. めざす方向性2
3. めざす方向性3

第6章 計画の推進体制と進捗管理

1. 推進体制
2. 計画の進捗管理

参考資料

第1章 丹波市生涯学習基本計画の策定にあたって

1. 生涯学習とは

教育基本法第3条では、生涯学習の理念を「国民一人ひとりが、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会にあらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」と規定されています。社会教育は、生涯学習の理念を実現するための重要な教育の一つであり、教育基本法第12条で「個人の要望や社会の要請にこたえ、社会において行われる教育」と規定されています。さらに、社会教育法第2条では、社会教育の定義について、「学校教育法に基づき、学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動（体育及びレクリエーションの活動を含む）」と明記されています。

「生涯学習」とは、一般には人々が生涯に行うあらゆる学習、すなわち、学校教育、家庭教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味など様々な場や機会において行う学習の意味で用いられます。

【生涯学習・社会教育の概念図】

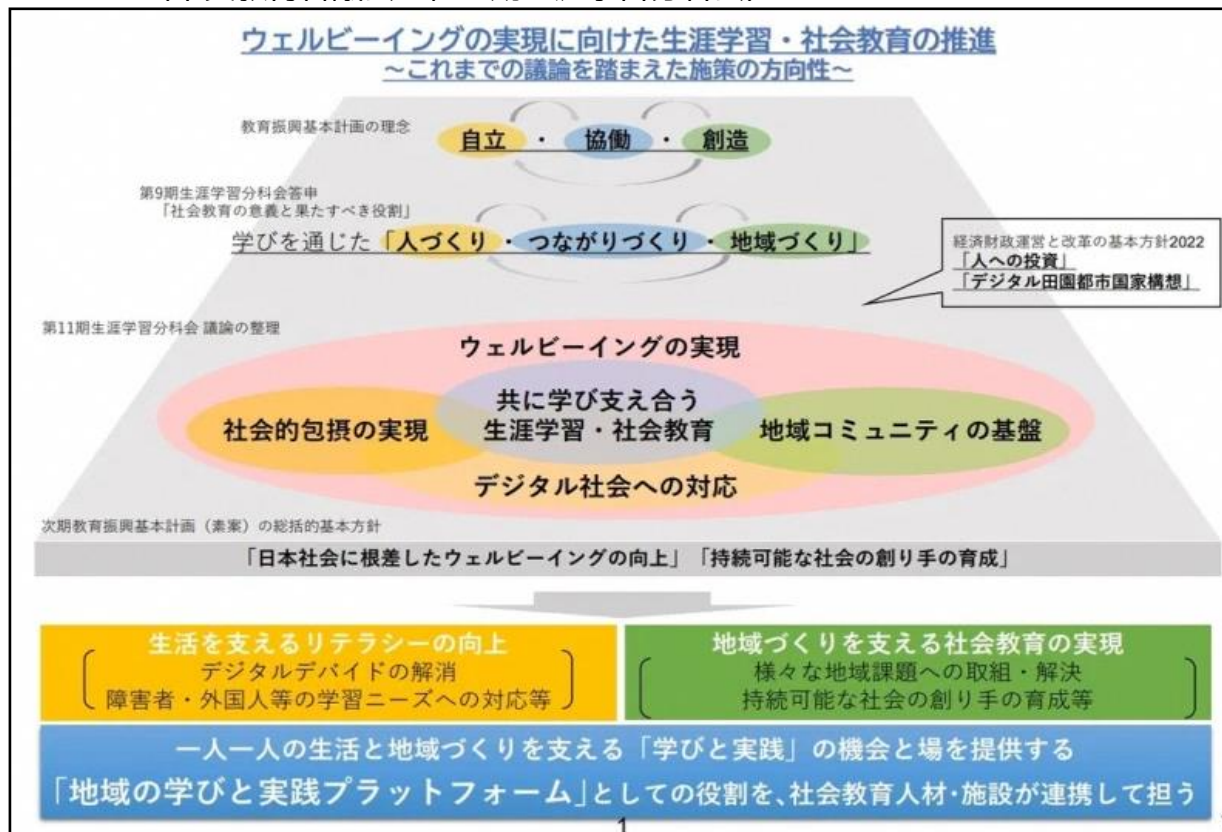


2. 計画策定の目的

これまでの学習活動や地域づくり活動の成果と課題を踏まえ、年齢、性別、国籍などに関わらず、誰もが楽しくまなび合いながら生き生きと暮らせ、個人と地域全体のウェルビーイングの向上を目指す生涯学習の在り方や、人や組織をつなぎ、学びを促進させる人材の育成や活躍などを体系的に位置づけた「第2期丹波市生涯学習基本計画」(以下、「本計画」という)を策定しました。

本計画の推進により、市民一人ひとりが生き生きと、互いに相手を認め合いながら楽しく活動することができ、それぞれの学びの成果を活かしながら、まちづくりを实践できるという理想のまちの姿を目指して、施策の推進を図っていきます。

■図〇 今後の生涯学習・社会教育の振興方策(重点事項)について
(中央教育審議会 第11期生涯学習分科会)



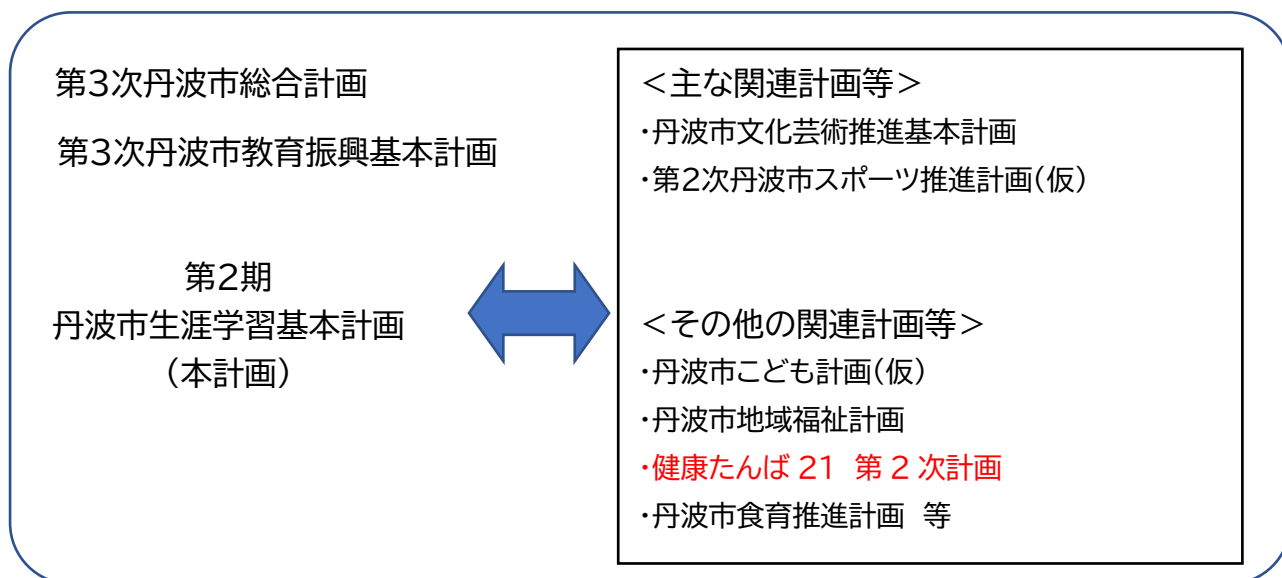
3. 計画の位置づけ

本計画は、丹波市民のまちづくりの基本的な考え方を示す「丹波市自治基本条例」第21条(生涯学習)を具現化するために策定します。教育基本法に定める生涯学習の理念である生涯学習社会の実現に向けて、市全体の生涯学習の推進を促し、市民ひとりひとりが安全安心で楽しくまなぶことを支援するための方策の方向性を示すものであります。計画の推進にあたり、丹波市自治基本条例に定める5つの基本原則「①市民主体の原則」「②情報の公開及び共有の原則」「③補完性の原則」「④協働の原則」「⑤多様性尊重の原則」を踏まえながら、多様な主体同士が連携し、生涯学習に取り組むことが重要です。

また、本計画に示す取り組みはあらゆる分野に関わることから、本市の基本的な施策を体系的に定めた「第3次丹波市総合計画」や本市の教育が目指す方向性及び目標を明らかにした「第3次丹波市教育振興基本計画」との整合性を図りながら、その他の関連計画を総合的に勘案し、策定するものです。

他の計画との関連については図〇のとおりです。

■図〇 関連計画との位置づけ



4. 計画の期間

本計画の期間は、令和7(2025)年度～令和16(2034)年度までの10年間とし、5年ごとに計画の内容について見直しを行います。

■計画の期間

計画	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034
第2期 生涯学習基本計画															
第3次 丹波市総合計画															
第3次 丹波市教育振興 基本計画															
丹波市文化芸術推進 基本計画															
第2次 スポーツ推進計画															
丹波市子ども読書活 動推進計画(第3次)															
丹波市こども計画															

第2章 第1期丹波市生涯学習基本計画の検証

第1期丹波市生涯学習基本計画(以下、前計画)では、「たんばにひろげるまなびの輪～豊かな資源を活かした生涯学習環境づくり～」を基本理念として、生涯学習活動の成果を活かし、地域課題の解消に向けた活動によって興味を持つ人がさらに増え、次世代に繋いでいく「知識循環型生涯学習による持続可能なまちづくり」を推進してきました。本章では、前計画の基本目標別に振り返り、成果と指標による市民の意識の変化を踏まえて、検証しています。

1.【基本目標1】まなび人を増やそう

(1)主な取り組み内容と成果

基本目標1「まなび人を増やそう」では、「生涯学習に興味関心を持ち、取り組む人を増やす」ことを目指していました。そのために「学びへの関心を高める」「学びを見つける」「学びの場をつくる」という課題を挙げ、各種事業に取り組んできました。

コロナ禍で市民の生涯学習活動や地域での活動が制限されましたが、現在はそれぞれの地域などで活動が再開してきており、積極的に生涯学習に取り組む「まなび人」が増えている傾向にあると言えます。

○TAMBAシニアカレッジ

概ね60歳以上の方を対象に、高齢期をいきいきと心豊かに過ごすため、シニア世代の生活課題の解決や、仲間づくりを目的に教養講座を開催しています。

様々ジャンルの講座や、受講生同士の対話の時間、自宅にいながらも学習ができる「ラジオ講座」などにも取り組み、楽しみながら受講されています。

○自治公民館活動支援

各自治会の「地域住民の学びの場」である自治公民館の活動を支援しています。自治公民館の活動資金を補助する「自治公民館活動補助金」や、自治公民館施設の修繕や改修などに使える「自治公民館整備補助金」などの補助事業や、自治公民館長や公民館主事といった自治公民館担当者の研修会や交流会を通じて、各自治公民館での活動が広がっています。

○その他の主な事業

- ・はじめての一步講座(文化・スポーツ課)
- ・水道出前講座(水道課)
- ・歴史講座(社会教育・文化財課) など

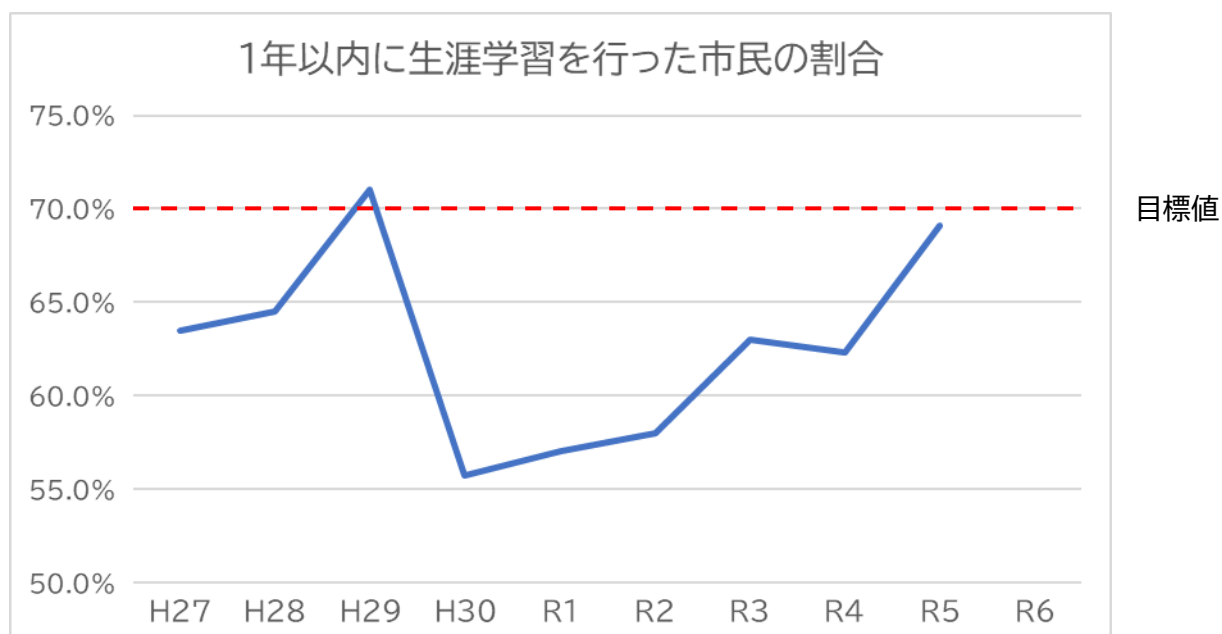
QRコード
各事業一覧

(2)主な指標

基本目標1「まなび人を増やそう」では、「1 年以内に生涯学習を行った市民の割合」をシンボル目標に定め、市民が生涯学習を実施している割合を「まなび人を増やす」ことの指標としています。

過去 10 年の推移では、平成 30 年度から徐々に上昇傾向を見せていますが、目標達成はしていません。新型コロナウイルス感染症の影響により、市民の生涯学習活動や、地域での活動が制限されましたが、市としてもコロナ禍に対応できる生涯学習事業の展開が不足していたことが目標未達成の要因ではないかと考えられます。

指標	実績値(%)										目標値(%)
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R6
1年以内に生涯学習を行った市民の割合	63.5	64.5	71.0	55.7	57.0	58.0	63.0	62.3	69.1	—	70



2.【基本目標 2】 まなび力を育てよう

(1)主な取り組み内容と成果

基本目標2「まなび力を育てよう」では、「継続して学び、主体的に学びをつくる、学び力を育てる。」ことを目指していました。そのために、「学びでつながる」「学びを生かす」「学びの力を高める」という課題を挙げ、各種事業に取り組んできました。

丹波市では生涯学習の拠点施設としての機能を有する「丹波市市民活動支援センター」を設置しており、市民活動支援センター行うプログラムにおいても、「まなび力」を育てるための様々な事業を実施しています。

○みんながセンセイ！みんなが生徒！ たんばまなびのマルシェ (市民活動支援センター事業)

市民活動支援センターに写真依頼
及びヒアリングを実施する。

○OTAMBA 地域づくり大学

地域や各種団体で活躍できる実践力を伴った人材を育成し、地域力を向上させることを目的に平成 27 年度から実施していましたが、令和4年度に廃止。

しかしながら、現在でも当時の受講生が地域で活動している姿もあり、一定の効果がありました。

イメージ写真

○市民と一緒につくる図書館

市の行う「図書館サポーター養成講座」を受講した市民が「図書館サポーター」となり、市の運営する図書館の行う事業と一緒に実施することなどを通じて、市民と協働した図書館運営を行っています。

また、「子ども司書養成講座」を受講したこどもたちが実際に「子ども司書」となり、図書館をベースとした活躍の場を広げています。

中央図書館に写真を依頼する

○その他の主な事業

・

QRコード
各事業一覧

(2)主な指標

基本目標2「まなび力を育てよう」では、「学びの活動で身についた知識や技能を生かしたいと思う市民の割合(仕事・地域での活動に生かしたいと回答したもの)」をシンボル目標に定め、生涯学習で学んだ知識や技能を地域や仕事で生かしたいと思う市民の割合を「まなび力を育てる」ことの指標としています。

結果的には基本目標の指標における目標値は達成されていませんが、学びの活動を通じて、得た知識や技術・気付きなどを地域課題の解決につながる取り組みを続けます。

人材育成の分野では、市が実施していた「TAMBA地域づくり大学」により、現在も地域で活躍する人材が生まれ、また、幅広い世代への学びの場を実施できました。

また、丹波市では、丹波市市民活動支援センターにおいて、学んだ成果を活かして実践することができるプログラムや、自身の学びを通じて人と人がつながり、交流できる場を実施しています。対面でつながることが出来る場を継続して実施することで、学びを通じたつながりづくりを行えているものと考えます。

指標	実績値(%)										目標値(%)
学びの活動で身についた知識や技能を生かしたいと思う市民の割合(仕事・地域)	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R6
	28.6	37.5	34.2	42.0	39.5	38.7	34.8	34.4	35.5	—	40



3.【基本目標 3】 まなび里をつくろう

(1)主な取り組み内容と成果

基本目標3「まなび里をつくろう」では、「学びで地域の魅力を見つける、学びのまちをつくる、学びからまちを活性化する。」ことを目指していました。そのために、「学びでつながる」「学びを生かす」「学びの力を高める」という課題を挙げ、各種事業に取り組んできました。

○地域の未来デザインプロジェクト(通称:ミライン)【市民活動支援センター事業】

市民活動支援センターに写真依頼
及びヒアリングを実施する。

○地域から考える学びの未来会議(通称:ミラカイ)

丹波市の教育応援プロジェクトとして、コミュニティ・スクールを核としながら、丹波市の教育をみんなで考える新たな学びの場としての「地域から考える学びの未来会議」を開催しています。

令和5年度には「学校と地域が共に考える学びの未来サミット」を開催し、多様な人たちが同じテーマで共に学び合い、語り合う機会を作りました。

○地域学校協働活動

「学校を核とした地域づくり」を目的に、学校と地域がその地域の子どもと大人がともにつながり、学び合う場を作っています。

また、コーディネーターとして市から委嘱している「地域学校協働活動推進員」が学校と地域の間に入り、相互の調整や企画作りなどを行い、各地域での特色を生かした活動を展開しています。



○その他の主な事業

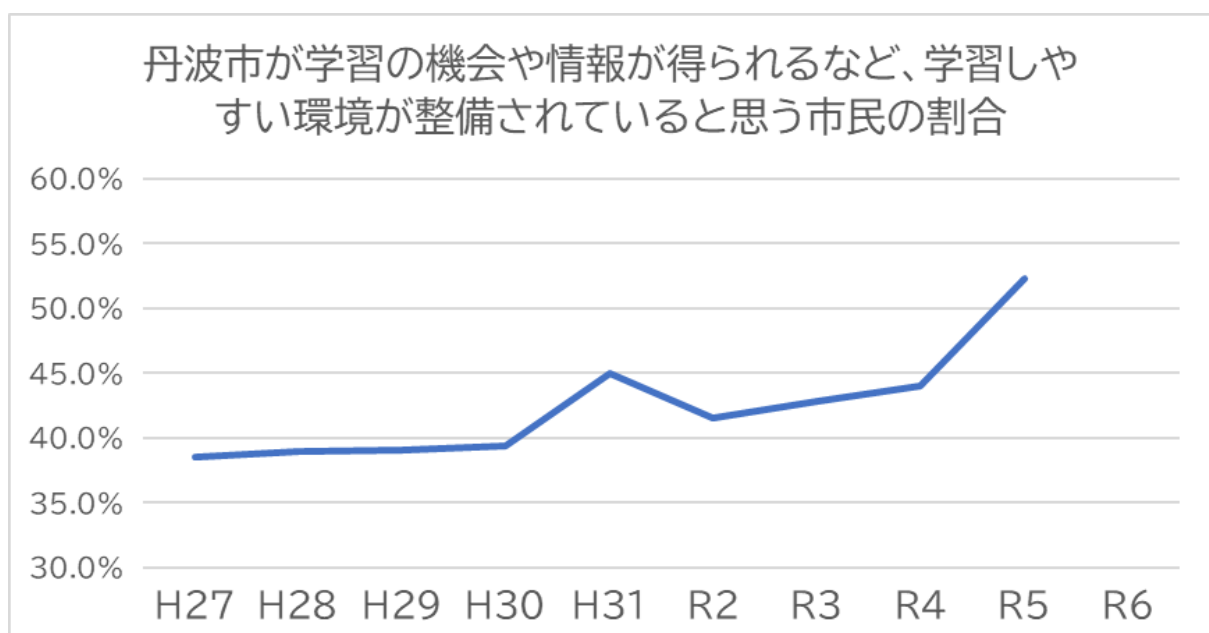
QRコード
各事業一覧

(2)主な指標

基本目標3「まなび里をつくろう」では、「丹波市は学習の機会や情報が得られるなど、学習しやすい環境が整備されていると思う市民の割合」をシンボル目標に定め、誰もが学べる場所があり、安心安全な学びの場が市内に整備されていると思う市民の割合を「まなび里をつくる」ことの指標としています。

調査では、令和2年度から緩やかに上昇傾向がみられ、令和4年度から5年度にかけては大幅に上昇している。この要因として、令和4年度から丹波市市民プラザ内に「市民活動支援センター」の指定管理が開始され、民間の視点から生涯学習の情報発信や、まなびの場を積極的に作ってきたことが考えられる。

指標	実績値(%)										目標値(%)
丹波市が学習の機会や情報が得られるなど、学習しやすい環境が整備されていると思う市民の割合	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R6
	38.5	38.9	39.1	39.4	45.0	41.5	42.8	44.1	52.3	—	増加



第3章 本市の生涯学習に関する現状

1. 生涯学習に関する市民の意識

本計画の策定にあたり、今後の生涯学習事業を推進していくための基礎資料とし、市民の学習活動の状況やその実態及び意識を明らかにする目的で「丹波市生涯学習に関するアンケート調査」を実施しました。

調査内容は、文部科学省の「生涯学習に関する世論調査(令和4年度調査)」を一部参考にしながら、個人の学習活動に関する状況や、地域における活動についての意識などについて調査を行いました。

また、「まなびを通じた『人づくり・つながりづくり・地域づくり』を支える人材について」の項目も新たに追加し、これからの時代における学びを支える人材についても市民の意識を調査しました。

- 1. 調査地域 : 丹波市全域
- 2. 調査対象者 : 市内在住の満 18 歳以上の市民
- 3. 抽出方法 : 住民基本台帳から 2,000 人を無作為抽出
- 4. 調査期間 : 令和6年6月 24 日～7月 12 日
- 5. 調査方法 : 郵便配布・郵便回収／web 回答

配布数	回収数	回収率	有効回答数	有効回収率
2,000	703	35.2%	703	35.2%

回答の結果の整理方法を説明する。

これから作成

2. 生涯学習をとりまく社会情勢の変化と丹波市の現状

(1)経緯・背景

新型コロナウイルス感染症の蔓延により、地域での生涯学習(まなび)の機会の減少や、自治公民館活動などが中止、縮小されたことで、住民同士のつながりの希薄化をもたらしています。

このような状況の中、行政サービスを受けるだけではなく、住民自らが主体的に地域のあり方について話し合いを通して考えることが必要です。学び合いを通して「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を進めていくことが求められています。それを実現するためには、学び合いの場づくりを支える人材の育成が重要です。

(2)国における生涯学習施策の動向

中央教育審議会の「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について(答申)」(H30.12)では、地域における社会教育の目指すものとして『「社会教育」を基盤とした人づくり、つながりづくり、地域づくり』が示され、「①住民の主体的な参加のためのきっかけづくり」、「②ネットワーク型行政の実質化」、「③地域の学びと活動を活性化する人材の活躍」により「開かれ、つながる社会教育の実現」という方向性が示されました。

令和5年からスタートして第4期教育振興基本計画では、「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」と2つのコンセプトが示されました。ウェルビーイングの実現とは、多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなることであり、教育を通じて日本社会に根差したウェルビーイングの向上を図っていくことが求められています。そして、生涯学習・社会教育を通じて、地域コミュニティを基盤としてウェルビーイングを実現していく視点の重要性が記されています。

このウェルビーイングの向上を目指すうえで、「社会的包摂」の考え方も非常に重要です。同計画では、「今後5年間の教育政策の目標と基本施策」の「目標7 多様な教育ニーズへの対応と社会的包摂」において、「障害や不登校、日本語能力、特異な才能、複合的な困難等の多様なニーズを有する子供たちに対応するため、社会的包摂の観点から個別最適な学びの機会を確保するとともに、全ての子供たちがそれぞれの多様性を認め合い、互いに高め合う協働的な学びの機会も確保することを通して、一人一人の能力・可能性を最大限に伸ばす教育を実現し、ウェルビーイングの向上を図る」と書かれています。この部分では「子ども」を中心とした教育ニーズについて記載していますが、大人も子どもも、共に認め合い、まなび合う「共生社会の実現」に向けた取組も必要であると言えます。

また、教育政策の目標には「学校・家庭・地域の連携・協働の推進による地域の教育力の向上」や「地域コミュニティの基盤を支える社会教育の推進」が掲げられており、地域コミュニティの基盤強化には、地域住民の「学び」が重要な役割を担うこと、社会教育士

等の社会教育人材の養成・活躍機会拡充が必要であるとされています。その手法の一つとして、国では「学校を核とした地域づくり」を実現するための「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」が示されています。

(3)県における生涯学習施策の動向

兵庫県教育委員会では、令和6年3月に「第4期ひょうご教育創造プラン(兵庫県教育基本計画)」が策定され、基本方針1「予測困難な時代を生き抜く力を育む教育の推進」が掲げられ、その基本的方向の9「人生100年を通じた学びの推進」では、地域コミュニティの基盤形成や地域課題を解決するために、「社会教育を支える人材の養成」や「行政、NPO(非営利団体)、大学、企業等の多様な主体との連携・協働」が必要であることが示されました。

(4)市における生涯学習施策の動向

本市の動きとしては、令和5年3月24日に「丹波市社会教育委員の会議」から「『地域学校協働活動』の展開に向けた取組について」の提言がなされ、令和6年3月28日には前計画における市民主体の協議の場である「丹波市まなびの里づくり協議会」から「『生涯学習(まなび)を実践に生かす地域づくりの推進』に向けた取組について」の提言がなされました。ともに、「学校・地域・家庭の連携協働」や、「活動を推進するコーディネーターの育成と活躍」についての内容が提言されています。

3. 丹波市における生涯学習施策の課題

持続可能なまちづくりにおいて、市民らが主体となって地域の課題や変化を受け止め、課題解決のために取り組むことが重要です。それらを実現するためには市民同士の「つながり」や「対話」が大切であり、「生涯学習(まなび)」は市民が楽しみながら参画・協働できる機会を生み出すきっかけとなります。丹波市の「知識循環型生涯学習による持続可能なまちづくり」を推進するためには、社会教育に携わる人材の育成や人づくり・つながりづくり・地域づくりに携わる社会教育士や地域学校協働活動推進員等のコーディネーターの役割が不可欠です。さらにまなびの輪を広げるためには、市民の生涯学習(まなび)を支える社会教育人材ネットワークの構築や、行政の横断連携による支援体制等の仕組み作りが必要です。

第4章 基本構想

1. 基本理念

案① やりたいことが、このまちにある ワクワクしながら学びあう「ひと」が育つまち

2. 目指す方向性

市民一人ひとりが「やりたいこと・チャレンジしたいこと」を見つけ、ワクワクして生涯学習に取り組むために、対話を通じて人と人がつながり、大人やこどもが共に楽しく学び合う生涯学習活動を支援します。

誰もが自ら学んだことをワクワクしながら実践出来ることや、やりたいことを一緒に楽しむ仲間がいることは、さらなる学びを生み出し、市民と地域全体のウェルビーイングが向上します。こどもから大人までが対話を通じて「まなびの土壌」を耕し、持続的な地域コミュニティの基盤形成を目指します。

1. 地域、家庭、学校がつながる「地域教育ネットワーク」の推進

誰もが住みたいと思える地域を作るためには、こどもと大人が共につながり、楽しく学び合えるまちになることが必要です。
地域、家庭、学校がつながり、こどもから大人までが協力しあうことができる「地域教育ネットワーク」を推進します。

イラスト

2. みんなの「やりたいこと」を支えるコーディネーターの育成と活躍の促進

学び合いを生み出し、広げるためには地域の「ひと」や「組織」など多様な主体者をゆるやかにつなげるコーディネーターが必要です。地域に暮らす一人ひとりの「やりたい」を応援するためのコーディネーターの育成と活躍する機会づくりを推進します。

イラスト

3. 誰もが楽しみながら学ぶことができる「まなびの土壌」を豊かにする

安全安心で自分らしく過ごせるまちになるためには、誰もが楽しみながら学ぶことができる「まなびの土壌」を耕す必要があります。こどもから大人までが語り合う「対話の場づくり」を推進します。

イラスト

3. 基本理念と目指す方向性についての体系図

第5章 計画の推進

1. 地域、家庭、学校がつながる「地域教育ネットワーク」の推進

誰もが住みたいと思える地域を作るためには、こどもと大人が共につながり、楽しく学び合えるまちになることが必要です。地域、家庭、学校がつながり、こどもから大人までが協力しあうことができる、それぞれの地域に根差した教育のネットワークづくりを推進します。

①地域、家庭、学校の連携・協働

○こどもから大人まで全ての人がお互いを認め合い、連携・協働していくことで、地域、家庭、学校が垣根を越えてつなわれ、誰もが楽しいを中心に置いた学びあいが出る環境づくりを推進します。

②市民活動団体や NPO など多様な主体との連携・協働

○公益性のある地域活動や地域課題の解決に向けた取組が効果的に推進されるよう、市民活動団体やNPOなど多様な主体と連携・協働を行います。

③多様なコーディネーター同士の情報共有のためのネットワークづくり

○人と人をゆるやかにつなぎ、伴走支援していく多様なコーディネーター同士が互いの現場での情報共有など行い、学びあうことの出来るネットワークを作ります。

④多様な学びの場をつなぐネットワークの推進

○市内で行われている学びの場を作っている主体同士がつながり、様々な人とのつながりから新しい気付きや価値観の違いに触れ、学びあう場を推進します。

2. みんなの「やりたいこと」を支える

コーディネーターの育成と活躍の促進

学び合いを生み出し、広げるためには地域の「ひと」や「組織」など多様な主体者をゆるやかにつなげるコーディネーターが必要です。地域に暮らす一人ひとりの「やりたい」を応援するためのコーディネーターの育成と活躍する機会づくりを推進します。

①多様な主体をつなげ、「対話」を通じた学びの場を作る人材の育成

○人と人、人と組織など、異なる主体同士を「対話」を通じてゆるやかにつなげ、こどもから大人までの誰もが関われる学びの場を作るコーディネーターを育成します。

②「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を支える「社会教育士」の養成推進

○「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を支える人材としての「社会教育士」の養成を推進します。

③「市民活動支援センター」における学びの支援機能の在り方検討

○市内における生涯学習活動の拠点施設としての「市民活動支援センター」での学び支援機能の在り方について検討します。

④地域のコーディネーターの活躍促進

○地域の中で活躍するコーディネーターの活躍の場をつくり、活動が出来る仕組みを進めます。

3. 誰もが楽しみながら学ぶことができる「まなびの土壌」を豊かにする

安全安心で自分らしく過ごせるまちになるためには、誰もが楽しみながら学ぶことができる「まなびの土壌」を耕す必要があります。こどもから大人までが語り合う「対話の場づくり」を推進します。

①市民の「対話」を通じた学びの場づくり

○市民同士が「対話」を通じた学びの場に参加できるよう、地域の中でこどもから大人まで誰もが対話できる場づくりの支援を行います。

②学びの機会のさらなる情報発信

○誰もが学びの場の情報を得ることができるように、これまで以上に市内で行われている学びの場についての情報発信を行います。

③自治協議会を中心とした地域力の向上

○地域の拠点としての自治協議(振興)会を中心として、学びの場を作ることや、ひとりづくりを行う事が重要です。

④誰もが「やりたい」と言え、「やりたい」を支える人がいる地域づくり

○性別、年齢、障がいの有無、国籍などに関わらず、市民誰もが「やりたい」ことを言うことができる地域づくりを推進します。そのためには市民同士の人権感覚などの醸成が重要です。

⑤ワクワクして地域とともに仕事をする市職員の育成

○行政と市民がわくわくしながら協働し、共に同じ未来を描きながら楽しんで市政を進めていける市職員を育成します。

推進の体系

基本理念

めざす方向性

具体的な施策

基

「地域教育ネットワーク」の推進
地域、家庭、学校がつながる

- ①地域、家庭、学校の連携・協働
- ②市民活動団体や NPO など多様な主体との連携・協働
- ③多様なコーディネーター同士の情報共有のためのネットワークづくり
- ④多様な学びの場をつなぐネットワークの推進

本

みんなの「やりたいこと」を支えるコーディネーターの育成と活躍の促進

- ①多様な主体をつなげ、「対話」を通じた学びの場を作る人材の育成
- ②「社会教育士」養成の推進
- ③「市民活動支援センター」における学びの支援機能の在り方検討
- ④地域のコーディネーターの活躍促進

理

念

誰もが楽しみながら学ぶことができる
「まなびの土壌」を豊かにする

- ①市民の「対話」を通じた学びの場づくり
- ②学びの機会のさらなる情報発信
- ③自治協議会を中心とした地域力の向上
- ④誰もが「やりたい」と言え、「やりたい」を支える人がいる地域づくり
- ⑤ワクワクして仕事をする市職員の育成